

## 第 24 回連続講演会

### 地域がキャンパス～2008 年度学生企画による環境学習活動発表会～

#### 学生座談会

司会：

こんにちは、環境教育専攻の者です。先ほども、野川の時に質問させて頂いた者です。僕自身は先ほど発表させて頂いた野川班と、今日ポスター発表だけだったんですけど、ポスター見て頂いた人はわかると思うんですけど、うどんのイベントを開く、「U-don」というプロジェクトに関わっていました。

今日は皆さんと一緒に、チラシのほうには、「地域活動への展望」という題で書いてありました座談会をやらせて頂きたいと思います。よろしくお願いします。

地域活動への展望ということなのですが、今回ちょっと、地域活動への展望というと、少しぱっとしないかなと僕は思ったので、今日皆さんにぜひ意見をお伺いしたいと思います。今日これまで発表があったような、地域の素材を使った環境教育を行う上で、学生とか、学生に限らず学校とか地域とかで行う上で、大切なこととか、必要なことはなんだろうということについて話しができたらなと思っています。

結論が別に一つじゃなくても、必要なことがたくさん出てくれば、たくさん出たでいいと思うので、いろいろな方々の意見をお伺いしたいと思います。

まず、今発表していただいた5団体以外でも、学生プログラムがいろいろとありましたので、ポスター発表だけだった学生にもちょっと意見をお伺いしたいと思います。

学生のプログラムをやってみて、学生が学んだこと、地域に残せたこと、成果は何だろう、というのを、今まで発表になかった団体の一つ一つ聞いていこうと思います。まず、「U-don あなたと私の絆は太くてコシがある」の代表の方、U-don を実際にやってみて、学びとか、成果があったら教えてください。



学生 A：

はい。環境教育専攻3年の学生です。よろしくお願いいたします。

U-don では、地域の子供たちを集めて、この地域で昔から作られていたうどんについて学んでもらって、それを実際に作って食べてもらうというイベントを実施しました。

地域の方をうどん作りの講師として呼び出して、子供たちにとっては、地域のうどんのことを学ぶと共に、地域の方との交流ともなり、よい機会になったと思います。

イベントを企画運営した私たちも、参加者を集めるという広報、食品を扱うという衛生面では課題が残りましたが、子供たちと接する楽しさや難しさ、小金井うどんに対する魅力を感じることができました。以上です。

司会：

はい、ありがとうございます。うどんの魅力ですね。小金井うどんは「すごくうまいな」というのが第一印象でした。昔から地域にいい素材があったんだなというのを感じました。

またポスター発表だけだった「青空教室」ですが、「小金井祭のごみ減量」ということでポスター発表がなされていました。代表の方いかがですか。学びとか成果とかあったら教えてください。

学生 B：

F 類環境教育専攻 3 年の学生です。青空教室は学園祭の小金井祭でごみを減量化するということを目標として活動している団体です。今年度はその中で、間伐材割り箸のリーフレットを作成しました。

あともう一点が、リユース食器を導入したい、という目標のもと、実際にはリユース食器を導入はできなかったんですけども、それに対して準備段階ということで、展示発表を行いました。

その二つで、成果としましては、まず展示発表で実際に来場者と触れ合って、少しでも環境に対する意識を啓発できたという点で、あまり多くの人と触れ合うことができなかったのはちょっと残念でしたが、実際にその展示発表を見て頂いた方からは、「私たちも一つずつ身近なことからやってみよう」というような思いを聞かせて頂けたりとか、小さなお子さんでも割り箸に対して少しでも興味を持って頂けたというのが大きな成果だと思います。

私たち学生としましても、今年度は達成できなかったリユースに対して、少しずつでも活動していくということが、今後の学園祭に対して、大きな環境行動といえますか、大きな活動の一步につながるのではないかと思います。以上です。ありがとうございます。

司会：

はい、ありがとうございます。

文化地理ゼミの「武蔵野へ行こう」はいかがでしょう？

「武蔵野へ行こう」に関わってみて、堀井君自身が学んだこととか、参加者の学びとか成果、何かあったら教えてください。

学生 C：

はい、我がゼミでは、武蔵野へ行こうというプロジェクトをしまして、地域の方々を呼んで身近な地域を再認識してもらおうというスタディーツアーを開催しました。

小金井に広がるハケを中心に地理や歴史や文化、自然などを、実際に地域の方々に見てもらって、説明して、理解してもらおうということをしました。地域の方々にとっては、普段何気なく見ている景色でも、やはり多くのことを知ることができたということが成果の一つだと思いますし、また、自分たちにとっても、人に教えるためにはやっぱり自分たちがそれを熟知していなければなりません。そういう点で自分たちが再認識できたということが大きいと思います。

またスタディーツアーというのは、なかなか人に説明する機会なんてないもので、どのようにしたらわかりやすく人に伝えることができるかと、実際二時間半くらい歩きましたが、いろいろなことに注意を配ったりしながらスタディーツアーというのは進めていかなければならないということ強く感じました。以上です。

司会：

はい、ありがとうございます。

今まで発表を聞いて、そして今のお話を伺っていて、僕は小川さんの発表の中で、「つなぐ」とか「つながる」という言葉を聞いたり、あと青空教室さんの話の中で、「人に知ってもらおう」、「間伐剤とかリユース食器につ

いて少しでも知ってもらったことが成果だ」ということを話を聞いて、それでちょっと僕が疑問に思ったことが一つあります。やはり「人と一緒に何かをする」ということがすごく大切なのかなと思います。

人とつながるといってちょっとお伺したいのが、先ほど発表にありました「小金井の地産地消追跡班」の方にちょっとお伺いしたんですけれども、先ほど映像に出てきた鈴木さんを知ったきっかけとか、鈴木さんとながったいきさつについてお話を伺いたいなと思います。どうやってつながったのでしょうか？

学生 D :

その鈴木農園の鈴木のおじいさんのことは、映像の出演者でもあった方がもともとこの環境教育実践施設ともつながりがあって、その方に「ちょっと今食と環境、地産地消をテーマにいろいろな企画を考えているんですが、この地域でそういう魅力ある農業やっている方とか、特長的な活動をされている方を教えてください」とお願いしたところ「94歳の現役の農家の方がいるんだよ」ということで私たちが興味を持ってつながりを持つこととなりました。

司会 :

ありがとうございます。やはり知り合いの知り合いとかいって少しずつ広がっていくのかなと今感じました。小川さんの発表も、樋口先生からその地域の人たちとか企業とつながっていく上で注意しなければいけないことは何ですかとか、ポイントは何かという話があったのですが、僕は今話を聴いていて、つながるってことはすごく大切なのだなと思ったのですが、なかなか大人に対して「一緒にやってください」と言う勇気がちょっと足りません。僕も突然いって、「お願いします」というふうに飛び込むことは難しいんです。つながる時点で、これからうまく関係作りをできるようにするために、私たち学生が大人にアプローチをするときの「コツ」があったら小川さんに教えて頂きたいなと思います。何かコツはあるのでしょうか？

小川氏 :

プラス面でもありマイナス面は「若さ」やね。「若い」ということで許される面と許されない面があると思うけれども、若いということは相手に対して、特に年配者にとっては守ってあげたいと気持ちもあるし、何か伝えてあげたいという気持ちがあるので、やはりそういう気持ちを真摯に伝えていくというのはとっても大事なポイントだと思いますね。

僕たちが、今日の「エコカード」の話とか、ああいう社会に対して関わりを打ち込んでいくときに僕が持っているポイントというのは、絶対に自分たちだけの利害ではない、相手にとってもプラスになるということをきちんと整理してあげることですね。

お互いにとってメリットになれば当然つながり合えるわけですね。私たちだけに「何とかしてください」「いようにしてください」というのでは相手はその気になってくれないので、やはりあなたにとって何がプラスで、私たちにとって何がプラスで、社会にとって何がプラスかということを中心に説明できるようにしないとかなかつながりというのは生まれにくい、続かない。そこところが僕ら一番気にしているところですね。それは若くても、ある程度年配になっても人と関わるという時には必要なことだと思います。

しかし、僕は環境教育を始めたときに、最初は環境問題というのは、人と自然の問題だと思いました。

僕の前の仕事で関わったのが人権問題でした。外国人の人権問題です。

その時にふと思ったのは、やはり人と人が平和な社会というのは絶対いるし、民主主義もいます。環境問題に入った時に、人と自然の民主主義というか、ほかの生き物との民主主義だと思ったのです。だから人と自然の関係をまず前にもったのですけれども、ずっとやっていると、結局環境問題というのは人と人との問題で、人間社会が生み出す問題ですから、結果的に人と人との関係が成り立たないと、環境問題の解決というのはしょうがない。そうすると環境問題というのは人と共に始まって人と共にずっと続いていく。そういう認識

に立てば、いかに人と関わることからしか生まれないのかというのに気づいたような気がしました。

ですから先ほどおっしゃったみたいに、人と人のつながりというのが最後の最後までキーになるのではないかなと思います。

司会：

はい、ありがとうございます。

人と人のつながりとか、あと、相手にとって何がプラスなのかとか、どういうことをしたいのかっていうのを伝えなければいけないという面で、半田さんがリヤカーを探すときに「味のあるリヤカーを探す会」を立ち上げて、それでリヤカーを探すことができたのは、それは人に対して上手く説明できたからじゃないかなということは今すごく感じました。リヤカーをいざ引いて、長野の公園に初めていった時に、周りの人たちからちょっと怪しい目で見られた話がありましたよね。

その怪しい目でみられた人達に対して、どういうふうに説明をして子ども達が集まるようになったのか、ちょっとお話を伺えたらと思いますが、いかがでしょうか？

半田氏：

はい、そこに初めて行った時怪しい目で見られました。しかし、「学生」というのが一つの武器になりましたね。「信州大学の学生です」と言うと「あ、そうですか」と言われます。僕たちが学生なので、さっき「若さ」っていいましたけれども、ある程度の無茶も許されたりとかっていう面が僕はプラスだと思っていて、逆に卒業してしまってから同じコトをやったときに、「学生」というバックがないと多分かなり厳しくなるんだろうと思います。

僕も今3年生で来年4年生になります。来年のうちは大丈夫だと思いますが、来年以降続けていくこと考えていて、その時に「学生」というバックがないことに対して不安を感じますね。

信頼してもらうために、「遊びあります」というチラシを作りました。一回目の活動の時にお母さんたちに不信がられて、チラシを作っておけばそれなりに信頼してもらえるのではないかと、思いを伝いやすいのではないかとこのチラシを作りました。これも地域の印刷屋さんの方がただで1000枚印刷してくれました。まあつながりってということですかね。

リヤカーを見つけたときも「僕たちこういうことをやりたいんです」ということを伝えました。そういう面で「学生」というのは、本当に僕この活動を通して自分の武器というか、学生だから周りの人がすごく助けてくれるなというのを感じたりして感謝しています。

司会：

ありがとうございます。

「学生だから思い切ったことやれよ」と結構言われていて、学生の今だからできることというのはたくさんあると思います。これから多くの人たちと出会って一緒に考えていくことがすごく大切なのかなと、今話を聞いていて思いました。

まだ時間ありますね。

では、挙手をいただきましたのでお願いいたします。

発言者 A：

現在トムソーヤクラブの事務局の者です。2006年まで学生やらせていただいております。

今の話について聞きたいなとか、いろいろな学生の活動を聞かせていただいて、先ほど半田君の話の中に

あった学生を終わってしまっていてどうするのかというところが具体的に聞きたいなと思います。

実際いろいろな、単発というか短期的な活動をこれまで、学芸大のみんなの実践の活動の報告を聞きましてけれども、そのなかで「では次回の課題はこうしたい」という話がでましたけれども、今後、活動を具体的に続けていく、つなげていく、発展させていくという点で、皆さんがどういうふうに考えているか、またそれに向けてどんな取り組みをしているかというところについて、いくつか皆さんのお話が聞けたらなというふうに思っています。よろしくお願いします。

半田氏：

はい、僕は「わにわに」という活動を始めました。そしていろいろな子どもと関わることを仕事としたいなと思っていました。

子どもキャンプ団体のキャンプリーダーであったりとか、社会教育であったりとか、一年間学校に関わってみて、学校の先生とかっていろいろなものを見てきた中で、僕が今自分のやっている活動が自分のやりたいことだなというふうに思っています。

今後の話ですけれども、この活動を僕は続けていきたいと思っているので、NPOとして立ち上げるや、指定管理者制度などを受けて、公園を遊び場として続けていけるようになればよいと思います。

継続することにいつも意味があると思っていて、それに対して、お金や、環境など難しい面はたくさんありますが、幸い注目されている分野で、それに対してお金がたりたり人がたりたりということがありますので、そういうところとつながりながら継続的に発展的に活動していきたいなというふうに考えています。

あと、ここに今学校の先生になりたいとか、なるという人が多いと思います。僕は公園という分野で、公園での遊びが好きで特化しているのでそこで頑張っていて、学校の先生になる人は学校の先生として頑張っていて、社会教育の人はそこで頑張っていて、それぞれ自分の得意な分野で特化して、そこで後でつながっていければ子どもの環境はハッピーで良い感じになるのではないかと考えています。以上です。

司会：

そろそろ時間がきましたが、短い間で結論を出すのは難しいんですが、今、話をうかがっていて、自分なりに簡単にまとめさせていただきます。

やはり若さというのは僕らの売りなので、「何かやりたい」と思ったときに、たとえば大学の先生や、企業の方や、NPO、NGOの方、公務員の方、いろいろな方に対してアプローチをして、「一緒にやろうよ」というふうに言うことが大切だと思います。そう言うときに、やはり相手にとってもプラス、僕らにとってもプラスになるようにしっかりと説明することがすごく大切であって、説明していくためには、僕らグループを作った時点でしっかりと話し合いをしていかなければいけないと思います。

これから僕ら学校の先生になるのか、それとも公務員なるのか、民間企業に就職するのか、それはわかりませんが、何らかの場所で、別に仕事の面ではなくても、普通に生活している中ででもいいのですが、何か地域教育、地域の環境教育を行っていくためには人が必要であって、「しっかりと考えていくこと」、「何事も一人ではできない」、「ネットワークを作っていくこと」が大切であると、僕は話を聞いていて思いました。

今日の話し合いでは、これが成果なのかなと思いました。

